


かさおか



1年生を迎える会



 笠岡市立笠岡小学校

4月30日、新型コロナウイルスの感染防止のため、いつもの年とは違った形で“1年生を迎える会”がありました。

1年生は少し緊張しながら花のアーチをくぐって体育館に入場し、2年生～5年生の代表からプレゼントを受け取った後、6年生と“転がしドッジボール”をして遊びました。

短い時間でしたが、思いっきり体を動かして楽しんでいました。

もうこれで立派な「笠小っ子」ですね。



6月の行事予定

緊急事態宣言を受けて5月23日の役員会は書面会議になりました。

また、総会を6月6日に予定しておりましたが、事態を鑑みて開催を中止し、書面会議としますので、ご理解の程お願いいたします。

○6月16日(水)18:30～
令和3年第4回総務部会を予定



『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所：笠岡市笠岡2627番地

電話：63-5949

Fax：75-0101

E-mail：zukuri2@mx1.kcv.ne.jp

開館日：月・水・金曜日14時～17時



「笠岡の地名」その③

(一) 西の続き

正寿場町は、寛文十一年の坪地詰帳に正寿庵町とあるように、庵寺名から町名が生まれた。正寿とは変わった名だが、それは①三途(しょうず)の河(サンズの河)や六道信仰からきたのか。②聖衆(しょうず) 極楽浄土のもろもろの菩薩、願成寺に亀川氏が三十三体の仏像を安置した、というのからくるのか、断定しがたい。天文年中、威徳寺玄圭和尚随身の僧、本跡庵をこの地(願成寺)に結び、塔司(たつす)となると伝わるけれど、この庵が正寿を名乗ってはいなかったか？ 寿正院の反対の言葉であるのも妙である。同検地帳では、風呂屋町と別になっている。しかし、今は一緒に正寿場町である。-中略-

思軒森田文蔵小伝に次のようなことが書いてある。「抑も(そもそも)笠岡の繁栄は西から東漸(とうぜん)したもので、今は中之町から東本町が栄えて居るが、明治の初期は川辺屋町を下りた、西本町の四辻が中心で、此処に公儀の高札があつて札場と呼んだ。ソレが徳川時代にさかのぼると正寿場町が中心で、今の金市から諸瀬(もろせ)の辺が盛り場で、相撲取り上がりの料理屋が二軒あつて、その名前は忘れたが、何れも相撲取りの名前を其マ>用いて居たそうである。」

金市は図の⑨吉田氏宅、図の⑧は恵日須神社

- ・塔司一禅宗で、塔頭(たっちゅう)をつかさどる役。
- ・東漸一勢力が東の方へ次第に伝わり広まること。

川辺屋町(川部屋、カワヤ)も古い町名で、隅田川の河辺から名が起ったのだろう(正寿場町の同川の曲がり近くを川端と呼ぶ)

ここに永正元年、玄忠寺ができたといわれる。

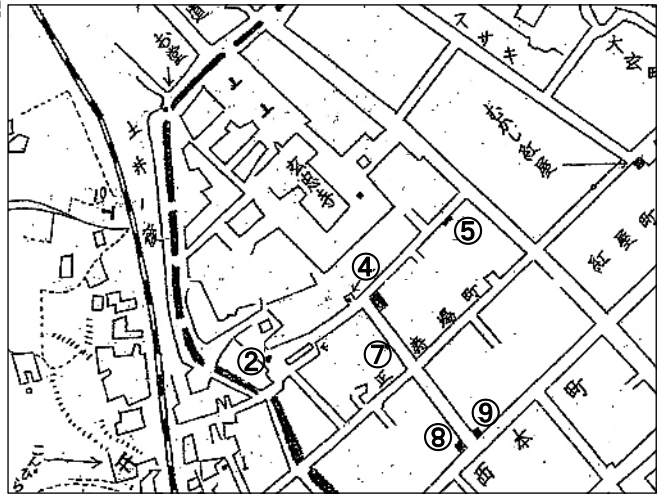
- ・大巖山壽正院玄忠寺 玄忠寺ホームページ参照 [略縁起]

文亀年間(1501年~1504年)源信の曼陀羅を講じていた僧忠円により開祖。永正元年(1504年)玄譽徹公により開山。この両名の諱をとり寺号とする。当寺は福山藩水野家の庇護のもと、備中国の触頭。

※六地藏 ※イボとり地蔵 ※熊野神社(川辺屋町寺下組がおまつりしている) 寺上組は同寺の北。

~次号に続く~

【資料提供】笠岡史談「笠岡の地名」広沢澄郎氏



☆地図の写真

②荒神社



④地蔵堂



⑤御韓(おんがら)神社



⑦恵美酒(えびす)神社



⑧恵日須神社



☆玄忠寺 「六地藏」



「イボとり地蔵」



「熊野大権現」

編集後記

「笠岡の地名」を連載していますが、知らない事がたくさん出てきます。郷土の歴史や文化に精通していないと書き記すことが難しいものばかり。つくづく感心しながら原稿を写していますが、コロナのことを忘れさせる時間かも知れませんね！ I・M

水の事故に注意

これからは気温が高くなると水辺に近づきやすく、注意しなければなりません。みんなで地域内をパトロールして危険個所を調べ、立札を立てたりして事故防止に取り組みましょう。

